

中沢かつゆき 通 信

自民党鎌倉市会議員

<http://www.nakazawa.jimusho.jp>



自民党鎌倉市連合支部幹事長

市政に関するご要望、皆さまの声をお聞かせください！

9月議会

鎌倉市議会9月議会では、市長への問責決議、ゴミ戸別収集有料化延期を求める決議が可決されました。首長は、県や国と連携して施策を進めなくてはなりません。3.11以降、自治体同士、県、国と連携した防災対策、災害時の救助、緊急対応など、より広範な連携、人脈が必要となっています。また、議会との関係は、緊張感を保ちながら理解を求める努力が必要です。このようなことを怠ったことで、決議が可決されています。

鎌倉市の文化財保存については、安国論寺で起きた、出土品棄損事件を質問しました。安国論寺で発掘された、蓋付鋳鉄製壺が短期間で風化してしまい、修復不能になってしまいました。鋳鉄製壺は、完品での出土が少

なく貴重な出土品でした。しかし、保存方法について十分な検証がなされず、また出土品の取り扱いについて、鎌倉市の体制整備が不十分なため、貴重な出土品を棄損させてしまいました。

新教育長には、教育行政に対する姿勢をうかがいました。「公教育」としての、市立小中学校のありかた。そして、いじめや登校拒否、体罰など学校が抱えている事案も多くあります。教育委員会と校長出身の教育長として、現場そして教育委員会の垣根なく「子どもたちのため」の教育行政を行ってほしいとお願いしました。

貴重な文化財棄損される

鎌倉の古刹・安国論寺は、日蓮上人が「立正安国論」を執筆した地として有名です。その安国論寺で、昨年発掘調査が行われました。発掘調査中、「鋳鉄製蓋付壺」が出土し、「遺失物」として届けられました。鎌倉市は、「文化財」と認定して、県と当初より遺失物保管期間が過ぎたら、安国論寺に所有権を移すこととしていました。しかし、その保管期間中、風化が一気に進み、原形をとどめないほど崩れてしまいました。慌てて保存について協議を始めましたが、すでに棄損した壺は、戻りません。なぜ、このような事態になったのか。鎌倉では、至る所で発掘が行われています。その出土品が「文化財」の場合、所有権は「県」になりますが、保管期間後は鎌倉市に移管されます。京都や奈良は、「埋蔵文化財研究所」で発掘調査だけでなく、保存方法なども出土当

初より関わっていきます。鎌倉市では、野村総研跡地に膨大な量の出土品をコンテナに入れて保管。分類も調査も行われず、ただ積んであるだけというものです。このような文化財行政の現状、世界遺産登録を目指した鎌倉市としては、あり得ないことと指摘しました。安国論寺で出土した鋳鉄製壺に関しては、まず「鎌倉市指定」文化財となるように手続きをしていく。そのうえで、保存に対して安国論寺に最大限協力していくこととなりました。また、出土文化財については、「古都・鎌倉」では、これからも大量の出土品が想定されることから、早急に文化財体制を再検討し、二度と今回のような事案がないことを、強く要請しました。今回の質問は、東京新聞でも大きく取り上げていただきました。

新教育長の教育行政

昨年10月から不在となっていた鎌倉市教育長。6月議会で、ようやく教育委員会経験者で現職校長が選任されました。教育に政治を露骨に持ち込もうとした市長の責任は大きく、この間にも子どもたちにとって、大きな課題が噴出していました。鎌倉市の教育現場は、待ったなしです。いじめ問題は、子供の人生を大きく左右します。教育委員長は、教育長不在の中、強いメッセージを出し、アンケートを取るなど教育委員会が学校と連携し、積極的に「いじめは許さない」という関わりをとってこられました。新教育長も、学校と連携して、いじめをなくすよう積極的にかかわっていくと答弁。また、登校拒否、体罰、不当要求保護者など、学校現場が抱えている課題も山積しています。新教育長には、強いリーダーシップを発揮していただき、子どもたちを安心して預けられる公教育であってほしいとお願いしました。ある学校では、教育が「ビジネス」になってしまっているところもありますが、公教育をビジネス、

とすることは、鎌倉市ではあり得ません。また、教育長不在時に、教育委員会の次長であり、小学校長でもあった新教育長に、教育長不在について聞きました。教職員、保護者、皆早く教育長が決まってほしいと思った。その間にも多くの課題が出てきたが、教育委員会と学校が連携して対応してきた。これからは、「生きる力を育む」ことに精いっぱい取り組んでいきたい、と答弁。子どもたちが、教師を「先生」ではなく、あだ名で呼ぶようになっています。時代の流れかなとも思いますが、「先生」と呼ばれる意味をもう一度考えてほしいと思います。「先生」は、言葉で「伝える」ことのできる方だと思います。子どもたちが、学校や家庭で抱えている多くのことを、「言葉」で解決していく。非常に大変だと思います。でも、子どもたちの将来を託しているということ、もう一度考えていただけたらと思います。

市長の政治姿勢

市長は、どうしても教育長人事を通したい。ならば反対する議員に、市長が懲罰を提起できる方法を、市の顧問弁護士に相談したことが発覚。顧問弁護士は、当然ながら「できません」と回答。その相談記録が、「行政文書」として存在していました。二元代表制の意味を全く理解していないこの行為に対して、議会として問責決議が可決されました。監査委員は、この支出に対して「不適切」と判断。議会は、予算を含めた行政執行を監視するのが役割。その議会の、市長が「懲罰」などできません。

4月の市議選で擁立した候補者を含めた自らのチラシが、選挙管理委員会の半数の委員から、「事前運動」と判断されるなど、「コンプライアンス」意識の希薄さが、浮き彫りになりました。「市長」の「役割」を、もう一度問い直さなくてはと思っています。

中沢かつゆきの経歴

経歴：昭和41年6月生

群馬県立渋川高等学校卒業
東京電機大学理工学部情報科学科卒業
スパライズ株式会社代表取締役
大阪観光大学観光学研究所
客員研究員
鎌倉中央ロータリークラブ副会長
材木座保育園保護者会会長
にかいどう子どもの家父母会会長
県議会議員中村省司秘書
著書「安全な温泉・あぶない温泉」
(草思社刊)
鎌倉市議2期 総務常任委員長
二階堂在住
事務局：Tel 0467-61-0305
Fax 0467-61-0315

ほっと、一息：日頃の疲れを、温泉で癒してみませんか？

* 中沢かつゆきは温泉コンサルタントでもあります *



磯部温泉：同志社大学を設立した「新島襄」は、安中藩出身。群馬県の地元かるた・上毛かるたでは、「平和の使い新島襄」と読まれています。その安中に、「凧」発祥といわれる磯部温泉があります。江戸時代、この地の判決文に温泉マーク「凧」が使われたことから、発祥の地といわれています。温泉マークは、現代では広く使用されていますが、そのルーツがここにあります。上毛三山の一つ妙義山を望む地は、中山道の宿場町として栄え、上毛かるたでは「中仙道しのぶ安中杉並木」と読まれ、多くの文人墨客が訪れています。明治の児童文学者・巖谷小波により「舌切り雀」物語の地としても、有名となりました。鉱泉を利用した、「磯部せんべい」はお土産としても人気が高く、昔からの名物です。泉質は、ナトリウム—塩化物・炭酸水素強塩泉。適応症は、やけど、切り傷、慢性婦人病など。

<http://www.minakamionsen.com/>